

松平康重所用 黒漆塗伊予札紺糸威二枚胴具足

今回紹介するのは、幕末の川越藩主・松平周防守家の祖先にあたる、松平康重が着用した甲冑です。

松平周防守家は徳川家康に古くから仕えていた家臣です。康重は周防守家の二代目で、天正十八年（一五九〇）から慶長六年（一六〇一）には、私市城（現在の騎西町）の城主でした。

この甲冑は、戦国武将が着用した物としては一見質素に見え、この時代に流行した質実剛健な甲冑の姿をよく示しています。かぶとは日根野形の頭形かぶと。かぶとの上にある前立は木彫りの大きなイタヤガイで、表は薄いだいだい色、裏は鮮やかな朱色に塗られています。胴は右脇で引き合わせる胴丸形式で、黒漆塗りの伊予札を紺色の組みひもでつづつています。動きやすいように揺糸を長くとり、草摺は五つに分かれています。

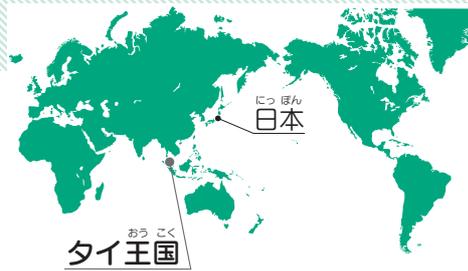
必要以上の装飾をしない引き締まった姿に、前立のイタヤガイの柔らかなシルエツトが優しい印象を与えています。康重はこの甲冑を身にまとい、幾多の合戦に臨んだことでしょう。甲冑を見ているだけで、戦国の世の風景が目に浮かんでくるようです。

この甲冑は、九月十日(日)まで、市立博物館で開催され



ている第十六回収蔵品展で展示されています。ぜひ、ご覧ください。

世界の国から、こんにちは！



タイ王国 / 中島スパタラーさん (39歳・笠幡)

タイ王国空手連盟の秘書と代表選手をしていたのがきっかけで、コーチの夫と知り合い、川越に住み始めました。ことしで12年目です。病院内のレストランで働きながら、市のタイ語教室の講師や県の外国人ヘルプデスクの相談員などを行っています。川越まつりが大好きで、毎年友人と楽しんでます。一度、離子を体験してみたいですね。

外国籍市民にとって、ことばが通じないことはとても不安です。だから、ことばがわからなくても笑顔で接してください。それだけで、外国籍の方は安心できるんですよ。
*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13・14ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

先月末から今月上旬にかけて、「川越水上公園のプールはいつから営業しますか？」という問い合わせが、広聴広報課に何件かありました。プールが始まるのを待ちこがれている皆さんが多いことを実感しました。この広報が出るころには、おそらく梅雨明けの発表がされ、まぶしい太陽が照りつけ、初雁公園水泳プールや川越水上公園は、多くの人たちでにぎわっていることでしょう▶小中学生や高校生は、夏休みに入りました。長いようであつという間に過ぎてしまう夏休み。そんな夏の計画の1つに、川越百万灯夏まつりを加えてみてはいかがでしょうか。ことしは、7月29日(土)・30日(日)に行われます。「Oh! 通りゃんせ KAWAGOE」などで盛り上がる2日間、広報担当職員は取材のため、カメラ片手に会場を駆け回ります。